

『フゴツペ洞窟の翼をもつ人』

作 白鳥雄介

【登場人物】

小塚誠太（こづか・せい太）

余市町に住む26歳の青年。現在は、要介護の母親と実家の古い市営住宅に二人暮らし。実家を離れていった姉・碧がいる。父親は幼い頃に離婚して現在は、音信不通。11歳で始まった母親の介護生活は15年に及んでいる。中学のときは宿泊研修は途中で帰らなければいけなかった。小学生・中学生のとき、修学旅行は諦めている。進学・就職の道を諦めることになってしまった。かつてはダンスに興味があった。高校は2年の秋に中退している。

小塚晴（こづか・はる）

余市町在住。55歳、誠太の母親。現在、若年性の認知症を患い息子の在宅介護を受けている。夫とは、碧が4歳の頃に離婚・蒸発。養育費などを受けられていない。人様に恥ずかしくないように、人様に迷惑がかからないように、と考えることで家族への負担が大きくなっていることも自覚しているが、一方で自分がこれ以上、何もできなくなっていくことで「母親」ではいられなくなることに恐れを感じている。幼少期から青年期に、自身の親が介護を受けている様子を見てきて、「人様に指を刺されてはいけない」「迷惑をかけてはいけない」という念が強くなる。複数人でいると会話の処理が追いつかなくなることがある。一対一だと比較的話せる。特定のミネラルウォーターしか受け付けなくなっている。

八神碧（やがみ・あお）

東京都在住。33歳、誠太の姉。既婚。旦那と二人暮らし。18歳で上京している。美容学校卒業後、すぐに美容師の道を断念。そのまま東京に残り生活し、最近、親への許しをもらうことなく結婚。美容師の道を諦めたことをしばらくは隠していた。現在は、大手ドラッグストアにパート勤務。

倉科賢太郎（くらしな・けんたろう）

誠太の高校の同級生。26歳。現在は、大手商社のデベロッパ。札幌市内で勤務。大きなプロジェクトを動かすことで人を豊かにすることに生きがいを感じ始めている。誠太とは同じクラスだったが、そこまで仲良くはなかった。

江ノ原広樹（えのはら・ひろき）

誠太の小学・中学・高校の同級生、つまりは幼馴染。26歳。自称・スピリチュアルを感じられる男。お節介なところがある。夏海のが好き。

夏海知華（なつみ・ちか）

誠太の高校の同級生。モテやすい。分け隔てなく接するせいで、今日も誰かを傷つけている。「自分」というものを持っておらず、夢も持ち合わせていない、という悩みがある。26歳。

ヨシバ

フゴツペ洞窟周辺に住んでいた続縄文人。生存当時、20歳。生きる意味を探すことに必死になっていた。基本は明るい振る舞い。悲しさを隠すために強気だったり、明るめに繕うことがある。この世を去ってから1500年以上をフゴツペ洞窟周辺で過ごしている。映画の多くを描いた人物。

クンプ（学芸員）

1500年以上前、フゴツペ洞窟周辺の村落で「翼をもつ人」となった人物。村のリーダーで、空から生命を頂戴し、平和の祈りを捧げていたシャーマンでもある。ゆくゆくはシヨロの恋人になる男。生存当時、20歳。

シヨロ（施設職員）

1500年以上前、フゴツペ洞窟周辺の村落で暮らすことになった続縄文人の女。隣村からやってきた。土器を作ったり、土偶や土鈴を作るなどが得意。村のリーダーと交際するために隣村からやってきた。生存当時、17歳。

縄文太鼓生演奏。

【場所】

フゴツペ洞窟（現代 若者たちとの会話）

フゴツペ洞窟（当時 回想シーン）

誠太と母親の回想（誠太の家の中）

姉との電話

サブエリアに、縄文太鼓奏者

【小塚家 家族年表】

晴 22歳で結婚。

晴 23歳で碧を出産。

晴 26歳あたりから夫との仲が非常に悪くなる。原因は夫の「飲む打つ買う」。

晴 30歳で誠太を出産。その前に、夫とは別れる。夫は蒸発。

碧、7歳にして家庭内暴力を父親から受けている。

晴 34歳。碧11歳、誠太4歳。晴のメンタルが崩れ始め、碧が食事や家事を担当。

晴 41歳。碧18歳、誠太11歳。碧は東京の専門学校へ進学。

晴の介護を誠太が受け持つ。碧、7年に及ぶ介護生活、

誠太を育てる生活から抜け出す。

晴 46歳。碧23歳、誠太16歳。誠太、ダンス部に入るが翌年、高校中退。

晴 55歳。碧33歳、誠太26歳。誠太の介護生活は15年に。

碧は結婚したことを報告するため、母親を結婚式へ呼ぶため、誠太を救うために帰ってきた。碧、誠太に休暇を与える。

開演。縄文太鼓の音色に乗せて照明変化。画の刻まれた壁が見えてくる。

シーン1

現代。この洞窟にいる続縄文人の亡霊・ヨシバが画を刻んでいる。

ヨシバ たっくさんの木の実が生（な）ってる木。

大きくって、沈まない舟。

シカを獲る罨は、シカが痛くないように。

伝えられる、ずっと先まで伝えられる。

飛べる……きつと飛べる！楽しい明日を、飛べる……。

だって、フゴッペには立っつっつ派な翼をもつ……!？

太鼓の音色が消える。

ヨシバ、人の気配を感じ取って下手奥に隠れる。

誠太が呆然とやってくる。母親である晴がいる。

誠太の頭の中に晴の声が聞こえてくる。誠太の11歳の回想が始まる。

晴 せいちゃん

!!

晴 せいちゃん

誠太 お母さん、今ご飯作るから。

晴 せいちゃん、包丁使うの上手でしょ。

誠太 うん。

晴 しっかりして、誠太いくつになつたのさ？

誠太 ……11

晴 11かい、したっけ来年6年生でしょ。

誠太 ……うん。

晴 お姉ちゃんは？

誠太 ……東京の専門学校忙しくて、帰ってこられないって。

晴 そう。

誠太 ……うん。

太鼓の音が、低く響く。 誠太の回想・13歳。

晴 ……せいちゃん

誠太 お母さん、今着替え出すから。
晴 せいちゃん、なんでもちやっちゃとしてくれてさ。誠太いくつになったのさ？
誠太 ……13。
晴 じゃあ勉強も頑張らないとだね
誠太 うん。
晴 お姉ちゃんは？
誠太 ……専門卒業して、東京で美容師になるから忙しくて帰ってこれないって。
晴 そう。
誠太 ……うん。

太鼓の音が、低く響く。誠太の回想・15歳〜17歳。

晴 ……せいちゃん
誠太 お母さん、それ雑巾でしょや。
晴 あれお母さん間違えて、雑巾で顔さ拭いたんだね。
誠太 顔洗い直さないと……
晴 せいちゃん、声変わりしてきたんでないかい？
誠太 ……前からこんな感じ……。
晴 (遮って) いくつになったのさ？
誠太 ……15。
晴 ! 来年高考生かい？
誠太 ……うん。
晴 あゝしたら高校入ったら部活動したいって言ってたべき？
誠太 え？
晴 せいちゃん何部入りたいのさ？
誠太 ……いいの？
晴 いいよお！
誠太 だってお姉ちゃんるときはダメだって。
晴 入りなさい！お母さん誠太のために、元気でいるから！
誠太 ほゝれ、何部？言っごらん？
誠太 ……じゃあ……

誠太が入りたい部活を口にしようとした寸前で
江ノ原と夏海、倉科がやってくる。

倉科 学校楽しい！
江ノ原 誠太も一緒にやろうよ！

誠太 広樹……
夏海 誠太くんいたら楽しくなりそうじゃん！
誠太 夏海ちゃん……
倉科 大会出て優勝すれば、一躍有名になれんだろ！
誠太 倉科くん
夏海 うちらも初めてだし！ね！？いいでしょ！？
誠太 (晴に) ダンス部！
晴 ……いいよ。
三人 (よっしゃあゝ やったあゝなど)

照明変化、太鼓の音が拍手のようになっていいるなど。
時が流れて高校2年生、秋季大会直前の会話。

倉科 明日の秋季大会、絶対優勝するぞ！
三人 (おおゝ！など)

3人、捌けていく。
晴、いつの間にかいなくなっている。(客席に一時ハケ)

誠太 お母さん、大会いつてきま！……？ お母さん？！ お母さん！！
太鼓の音が高鳴っていく。誠太、客席通路へ捌ける。
いなくなっていた晴が現れる。踏切を前に待っている。
太鼓の音が踏切を通過する電車のように聴こえる。
そこへ誠太戻ってきて、晴を発見する。

誠太 お母さん！
晴 せいちゃん……？
誠太 お母さん、ダメだよ、急に家出てったら。
晴 ちよっと下降りてって、買い物したくって。
誠太 ここどこだかわかる？！
晴 すぐ近くのスーパ…… (に行こうとしてたのに)。
誠太 ……違うよ、踏切だよ。轢かれたら死んだんだよ……？
誠太、ダンスの大会どしたのさ！
誠太 え？
晴 お母さん、お弁当作ってあげたくて。

誠太 ……
晴 そう。
誠太 ……
晴 あれお姉ちゃんは？
誠太 ……え？
晴 お姉ちゃんは？
誠太 ……何年も帰ってきてないじゃん。
晴 そう。
誠太 ……うん。

ME 不協和音

そこに太鼓の音が混じる。 誠太の回想・17歳。

晴 ……せいちゃん？
誠太 お母さん、今日なんだけどね、介護士さんが来てくれてるよ
晴 ダメよ、お世話にならなくてもいいの。
誠太 体調とか見るだけだから。
晴 (介護士に向かったの声色で) あ、全然全然！元気ですよ、
最近ほ調子がいいんです♪介護だなんて大袈裟な。お金もかかるし、
母親が一人息子のことさ置いておけないでしょう？
誠太 息子ですか？…高校生です。

不協和音、太鼓の音がなくなって

誠太 ……高校やめたよ。
晴 そうだったかい？したら今いくつになったのさ？
誠太 ……17。
晴 ……お姉ちゃんは？
誠太 ……連絡はつくのに、帰ってこないね。
晴 そう。

ME 不協和音が再び、誠太の脳内に流れる。

そこに太鼓の音が混じる。 誠太の回想・23歳。

誠太 ……お母さん、立てる？
晴 うん、ありがと。人様に、迷惑かけるようなことだけはね。

誠太 歩ける？

晴 家の中ならへっちらだ。

誠太 捕まって。

晴 あら？せいちゃん、また背伸びたんでないかい？

誠太 ……。

晴 いくつになったのさ。

誠太 ……23。

晴 やだせいちゃん、アルバイトは？

誠太 ……アルバイトは……やめたよ。

晴 ……？

誠太 (悔しさを抑えて笑って) お母さん、これからはお母さんのこと

晴 ずっと見ていくから。

誠太 ありがとう。誠太は、一等、優しいね。お母さん、誠太がいてよかった。

誠太 ……。

晴 ??…お姉ちゃんは？

誠太 ……お姉ちゃん、もうすぐ30になるのに。

晴 そう……。

誠太 ……うん。

太鼓がリズムを奏でる。誠太の回想、いつなのかもはやわからない。

誠太はヨタヨタと舞台を周回。晴はどこかへ消えていく。だが声だけが

誠太の脳裏に焼き付いている。

晴 ……せいちゃん(と呼び続けている)

誠太 (最初よりも弱々しい声で) お母さん、今ご飯作るから。今着替え出すから。

それ雑巾でしょや。ダメだよ、急に家出てったら。介護士さんが来てくれてるよ。立てる？

晴 せいちゃん！

太鼓のリズムが止まる。

晴 いくつになったのさ？

誠太 ……26。

太鼓の音、ドコドン！

晴 お姉ちゃんは？
……33。

太鼓の音、ドコドン！

晴 あたしは！？……いくつさ？

誠太 ……まだ55。

晴 ……そう。

誠太 うん。

太鼓のリズムが激しくなっていく。

晴 せいちゃん（と何度も呼びかける）

誠太 お母さん、今ご飯作るから。今着替え出すから。それ雑巾でしょや。

ダメだよ、急に家出てったら。介護士さんが来てくれるよ。立てる？

誠太はストレスからお腹の痛みが出てきたのか、うずくまる。

晴、やがて捌けていく。

誠太 もうやめてよ！僕はここでじーっとしてたいんだから！

放っておいてよ！

誠太、耳を塞ぐ。回想が全て終わる。一連の誠太を見ていたヨシパが

うずくまる誠太の元へ近寄っていく。

ヨシパ 放っておけないよ！

誠太 ？

出会う二人。オープニング曲。太鼓の音が重なっていく。

タイトル・OHPスライド。タイトル「フゴツペ洞窟の翼をもつ人」

太鼓が決まる。

誠太 なになになになになに！？！？！？

ヨシパ え！？え！？え！？え！？え！？え！？え！？え！？え！？

誠太 誰？誰？誰？誰？誰？誰？誰？誰？誰？誰？

誠太は突如、ヨシパのことが見えるようになる。
パニック気味の二人。

ヨシパ いーーーーわーーーーかっただ！

誠太は、ヨシパの服装を頭の片隅で不思議に思っている。

ヨシパ (嬉しそうに) 話せてる

誠太 なに？

ヨシパ いつもは見えないし、聞こえないから話せないのに！

誠太 なに？

ヨシパ 話せてる~~~~！僕、ヨシパ！

誠太 ……。

ヨシパ ヨシパ！（名前を覚えてくれの感じを出す）

誠太 誠太。

ヨシパ 誠太！

誠太 ……。

ヨシパ ん！（握手！）

誠太 え？

ヨシパ ん！（握手！）

誠太 ……（握手しようとして）

二人 スーン

ヨシパ へ？

誠太 ん？

ヨシパ あれ？へへー、ん！（握手！）

ヨシパから握手しに行こうとするが、触れず。

二人 スーン

ヨシパ ……（絶望し）触れない！

誠太 え？

ヨシパ 見えてるし、聞こえてるし、話せてる！！なのに触れない！（泣く）

誠太 ああ、ああ、どうしちゃったの？（肩に手をかけようとする）

二人 スーン

ヨシパ はーーーーー、ハーーーーー（号泣）

誠太 泣かないで

ヨシバ (触れられないことを泣きじゃくって、言葉にならない言葉を話している)

誠太 泣かないでよ!

ヨシバ (言葉にならない言葉を話している)

誠太 ヨシバ!

ヨシバ オロ?……今、ヨシパって言った?

誠太 うん。

ヨシバ 名前、呼んでくれた?

誠太 だってヨシパなんでしょ?

ヨシバ 誰かにヨシパって呼んでもらえるなんて、もうないと思ってた〜!

誠太 ど、どうして?

ヨシバ だって僕は。

SE 大きな波の音。人が飲み込まれたら命がないような激しい音。
ヨシバ、海難事故の記憶が一瞬フラッシュして絶望の顔をするが、
気を持ち直してから

ヨシバ ……ううん! 誠太、ありがとう!

誠太 ……。

ヨシバ ねえ聞いてもいい?

誠太 え?

ヨシバ どうしてココに来たの?

太鼓の音が大きく響く。ドン!

誠太 ……僕は、どうして……

太鼓の音が鳴っていく。場面転換。ヨシバ、ハケる。

シーン2

照明が入ると、料理をしている誠太。晴がいる。

太鼓の音がいつの間にか、SE キャベツを切る音 になっていて、

電子レンジが動いている音 ブォー

晴 せいちゃん

誠太 なに

晴 せいちゃん
誠太 今ご飯作るから。
晴 ご飯？作ってるの？
誠太 そう
晴 せいちゃん優しんでしょ
誠太 ……普通だよ
晴 あれでしょ
誠太 ん？
晴 ……
誠太 (笑って) え？お母さん？
晴 布団さ、夏用にしたかい？
誠太 ああ、4日前くらいにやったよ。
晴 (頷く)

SE 電子レンジの音 チーン！

晴 なに作ったのさ？
誠太 ん？ハンバーグ
晴 あらゝすごいねゝなんでも作れて
誠太 一昨日、作ったやつの冷凍だよ？
晴 ……(頷いて笑う)
誠太 豆腐入ってるから食べやすいと思うよ。
晴 ……

誠太は出来上がったハンバーグをミキサーに入れている。

SE ミキサーでハンバーグをドロドロになるまで刻む。

SE バコン イーローローローン

買い物帰りの碧が帰ってくる。碧が敷居を跨ぐのは15年ぶり。

碧 ただいまゝ、階段きつつー
誠太 (ミキサーを止めて) ……おねえちゃん？
碧 ただいまゝ！久々だねゝ……ああこれ！お母さんと誠太が好きなおやきゝ！
誠太 あんことカスタード、1個ずつ食べていいよゝ！
碧 ……
誠太 ……？ ああ、そっか！もう夕飯の時間だもんねゝ。
誠太 ……

碧 え？ハンバーグ？……これ？
誠太 ……そうだけど。
碧 ……すごいじゃーん！あ、でそっちのがお母さん食べるやつ？

間。

碧 ん？ミキサーにかけたのがお母さん食べる方でしょ？
誠太 ……。
碧 え？
誠太 ……僕が食べる方、だよ。
碧 ！
誠太 ……。胃潰瘍。消化にいいものしか食べられなくて。
碧 ……そう。
誠太 お姉ちゃん、どうして急に
晴 せいちゃん、水もらえる？
誠太 ああ、はい。
碧 え！ああいいよ、買ってきたから。
誠太 ……うん。

碧、買ってきたミネラルウォーターをコップに注ぐ。

碧 はい、お水。
晴 ……碧。
碧 ……そうだよ〜
晴 ……碧は美容師なって東京で頑張ってるの？
碧 ……うーん……そ、そうだね〜……
晴 うんうん、美容師専門学校行ってよかったね〜！
碧 ……。
晴 ……お母さんの髪も切ってね！
碧 ……うん。……ハンバーグ冷めちゃうから食べな。
晴 そだね（と言いながら水を飲む）
誠太 ……ああ、ちょっと待ってお母さん

誠太、晴が飲もうとしている水を取り上げて、焦り出す。

碧 なに？

誠太 これじゃない！
碧 え？これじゃなかったっけ？
誠太 うーんとね、今はこれじゃない、お母さん吐いちゃう。
碧 ごめん。もっかい行ってくる？
誠太 いい、下の自販機に売ってる。吐かれるよりはマシだからー！

誠太、出ていく。碧は晴の背中を摩りながら。SEガチャン バタン

碧 ……お母さん、大丈夫？
晴 ……うん。(誠太がいないので不安ですぐに呼ぼうと)せいちゃん
碧 下降りてった、自販機で水買ってる。
晴 そ。

間。

碧 お母さん……
晴 ん？
碧 大事な話あって。
晴 なしたのさ？
碧 ……結婚した……。
晴 ……そう。
碧 八神さんって人でね、アパレルの会社やって。いい人。
碧 東京でしかできない仕事やって、あんまりこっちに帰って
碧 こられないかもしれないのー。向こうの実家も鹿児島だし。
碧 大事にしなさい。
晴 ……うん。
碧 帰ってこられるとき帰ってくるでいいから。したらさ、髪切って。
碧 に切ってもらうの、私、一等楽しみにしてたんだから。
碧 ……うん……それでね
碧 人様に迷惑かけることだけ、したらダメだよ碧。お父さんのこと見てたっしょ。
碧 ……うん。
碧 ……私さ、碧のこと全然可愛がってやられなかったっしょ？
碧 だから誠太にはお母さんでいてあげたくて。
碧 お母さん、私もう……

碧、「ここに戻らない」と当初は言いに来たつもりだった。

晴 ばあちゃん、施設入ったときのこと覚えてる？
碧 ……うん。

晴 お母ちゃんさあ、施設のベッドで寝てるのさ。私いたたまれなくて。
碧 自分の親がもう親じゃなくなっちゃったみたいなの、
晴 足も伸ばせなくなってるさ、コロツと丸まって、じゃがいもみたいに見えたの。
碧 うん。

晴 私はじゃがいもには、なりたくないなって思ったの。
碧 ……。

碧 (少し嗚咽)
お母さん？

誠太、戻ってくる。

誠太 買ってきたー

碧 ああ。

誠太 吐いてない？

碧 うん、いまちよつときた。

誠太 お母さん、大丈夫？飲める？

晴、誠太が買ってきたペットボトルを飲む。

晴 ご飯、向こうで食べるわ。

誠太 うん、したら立って

碧 ……。

晴、誠太の付き添いでハケていく。碧、呆然と残っている。

誠太、ハンバークを置いて戻ってくる。

碧 ……。

誠太 …… (同時に) お姉ちゃん。

碧 …… (同時に) 誠太。

碧 なに？

誠太 どうして急に帰ってきたの？

碧 …… 誠太、大きくなって……。

誠太 15年ぶりだからね……

碧 ……うん
誠太 何しにきたの？
碧 結婚した。
誠太 ……そう。
碧 今、ドラッグストアのパートしながら、
旦那の会社たまに手伝ったりしてて。
誠太 美容師は？
碧 ああ……随分前に、しんどくなって……やめちゃった……

誠太は、ミキサ―食のハンバーグを皿に注ぎ、スプーンで飲む。

誠太 お姉ちゃん、よかったね。
碧 え？……違うの。
誠太 心配しないでいいよ。お母さんのことは僕が、一生、見るから。
碧 施設に入れよう。
誠太 入らないよ、お母さんは。じゃがいもになりたくない……って。お金もないし。
碧 でも
誠太 もう僕以外にお母さん守ってあげられないんだよ！
碧 誠太……
誠太 お母さん、目離せなくなつて。高校中退。正社員になれそうだったアルバイトもクビになつて……（碧にやるせなさを感じつつ）結婚おめでと。
碧 （頷いて）……誠太、明日なんかあるの？
誠太 ……お母さんと一緒にいるよ。

碧は、誠太を介護の負担から救い出そうと決意する。

碧 私いるからどっか、休んできな？
誠太 え？
碧 ほら……結婚とかで？お母さんと話したいこともあるし。
誠太 でも
碧 誠太、休んでるの？
誠太 ……
碧 出かけておいで。どこでもいいから。

碧、晴が去っていった方に捌けていく。

SE 波打ち際の音、SE 海水浴客の声（役者声録音）

回想シーンが終わる。

シーン4

ヨシバは、お母さんがいること、家族がいることが羨ましくいる。
ヨシバ、足をさすっている。

ヨシバ ……誠太はずーっつと、カカ様を大切にしているんだね。

誠太 ……うん、でお姉ちゃんが急に帰ってきて、休めって言われても、
買い物以外、もう何年も出かけたことなくて。

ヨシバ ここはさ、小学校のまだ低学年の頃、「秘境探検」って言って来たことあって。
でも友達が怖がってここまで入らなくて。僕はすごい居心地良さそうに
見えたんだけど、絶対幽霊いるからダメだよって止められた。
僕はもっと早く会ってたかもね。

誠太 うん。

誠太 ……ヨシバは？

ヨシバ ん？

誠太 ヨシバはここで、何してるの？

ヨシバ、得意げな顔をして脇にある翼を背負う。

太鼓の音が入って、お祈りを捧げる舞を踊る。

音が決まると、OHP「映画の集まり」が映し出される。

誠太 お祈り？

ヨシバ フゴツペが豊かになりますようにって。

誠太 これ、ヨシバが描いたの？

ヨシバ (得意げに) そう。フゴツペのこと！

誠太 これはなに？

ヨシバ なんでしょう？

誠太 え、なんだろ？

ヨシバ これはみんなで作った舟！

誠太 舟？

ヨシバ これはみんなで獲った一番大きなシカ！

誠太 これシカ？

ヨシバ どう見たってシカでしょ！

誠太 ……追いかけて獲ってたってこと？

ヨシバ うん、大きな獲物を獲るのが、フゴツペの男の仕事。
それを料理するのが、女の仕事。
誠太 へえ〜！

OHPアウト。

ヨシバ シカはおいしいなあ〜
誠太 そうなの？

ヨシバ うん、シカとクマと、アシカが好き。魚だとクロダイ。
貝だとホタテ！でも一番おいしいのはシャチ！

誠太 シャチ？

ヨシバ シャチが一番獲るのが難しい、でも一番おいしい。

誠太 え〜

ヨシバ シャチ食べたいなあ〜

誠太 え、生？

ヨシバ ん？

誠太 そのまま食べてたの？

ヨシバ ……（ちよつと馬鹿にされた言い方が鼻について）煮て食べてた！

誠太 え、煮物ってこと？

ヨシバ 火あるから！

誠太 へえ〜！

ヨシバ あのね！言っとくけど、ヨシバが初めて、煮たんだよ？

誠太 シャチを？

ヨシバ シャチをとかじゃなくて、食べ物を初めて煮たのが！ヨシパ。

誠太 え〜ほんと？

太鼓の音が鳴る。ドン！

ヨシバ ……ほんと！

誠太 うそっぽ〜

ヨシバ （声が大きくなって）嘘じゃない！

誠太 「味染みてる〜」って初めて言ったのはヨシパ！

ヨシパ みんなに驚かれたんだよ！？フゴツペで一番の料理上手だったもん！

ヨシパ なんでも作れたもん！

誠太 じゃあ、ハンバーグ作ったことあるの？

誠太

ヨシバ ……ある！

誠太 ハンバーグ！？知ってるの？

ヨシバ 知ってる。フゴツペの海水浴場でバーベキューしてる人が、焼いてた！

誠太 バーベキュー知ってるの？

ヨシバ ヨシバは、この洞窟と目の前の海水浴場だけは行けるから、
いろんなこと覚えたから！（知識を披露・日替わり）

誠太 すごいー！

ヨシバ ハンバーグも知ってる！

誠太 へえ〜！じゃあケーキは？

ヨシバ ……ケーキ？

誠太 あ、ケーキ知らないんだ！

ヨシバ 海水浴場で見てないものは知らない！

誠太 甘くて、ふわふわしてて、

ヨシバ 甘いもの！クッキー！

誠太 ……クッキー！？

ヨシバ クッキー！これはほんつとにヨシバが初めて作りました！

誠太 ええ〜大昔でしょ！？

ヨシバ ナベの中にどんぐりを入れて、煮つめて、乾かして、潰して、
もう一回水入れて、コネコネして、焼いて！クッキー。

岩壁の真下に重ねて置いている石を誠太の前に出す。

それは石ではなく炭化したクッキーだ。

誠太 石？

ヨシバ 違うよ！クッキー！

誠太 これが？

ヨシバ そうだよ！

誠太 真っ黒。

ヨシバ ！作りたては美味しい色してる！

誠太 へえ〜そうなんだ。思ったよりもいい暮らし。

ヨシバ そうだよ！フゴツペは何でも採れた！海も森もすぐそばにあるから。
なんでも作れた！

誠太 プリンは？

ヨシバ ……プリン？

誠太 プリン。

ヨシバ ない。…でもクッキーはあった！

誠太 ……（笑っちゃう）。
ヨシパ もう！
誠太 だって（笑っちゃう）
ヨシパ ……誠太？
誠太 なに？
ヨシパ 笑った。初めて！

誠太、自分自身が何年振りに笑ったのか、久々すぎてハッとする。

誠太 ……。
ヨシパ （誠太を見て嬉しくなる）
誠太 ヨシパ？
ヨシパ なに？
誠太 ありがとう。なんでだろう、ヨシパは、話しやすいや。関係ないから。
ヨシパ ……。僕も、誠太とは話しやすい。
誠太 お互い寂しいもの同士だからかな。
ヨシパ ええ！誠太はカカ様いる！
誠太 そうだけどさ
ヨシパ ありがと。話せるだけでも嬉しい！もっと知りたい！
誠太 ……プリン♪
ヨシパ ちよつと！
誠太 プリン！
ヨシパ そうやって！料理は本当にしてたし、クッキーは作ってたんだから！信じてよ！

笑い合う二人。ヨシパ、真っ黒になったクッキーを
取って元の位置に戻す。
翼を脱ぐヨシパ。誠太は岩壁に描かれている絵が気になる。

誠太 だってフゴッペでは女の人が料理するんでしょ？

SE 波の音 OHP 「記憶の海が揺れる」 ヨシパ、足をさする。

誠太 ヨシパ、男なのに一番料理うまいとか言うから！
ヨシパ ……。
誠太 あれヨシパ？

ヨシバ ううん！ヨシバは、料理だって、なんだってできたんだから！
誠太 へえ〜。ねえヨシバ。あそこに描かれてるの……

太鼓の音がドドン！と響く。

OHP 「翼をもつ人」 翼をもつ人の絵を指す誠太。

誠太 さっきの

ヨシバ ……翼をもつ者。

誠太 翼？なんで人に翼が生えてるの？

ヨシバ ……。

誠太 ヨシバ？

ヨシバ 翼を受け継いだ者が空と星と話せるんだ。

誠太 空と星？

小さく太鼓の音が重なっていく。

ヨシバ 翼をつけて空に向かってお願いする。豊かになりますように！って！

すると海が穏やかになる。そうすれば、森も静かになる。

森が静かになったらその日一日にお礼を言って

今度は星と話す。星になったみんななど。今日も守ってくれてありがとうって。

そうやってフゴツペは命を巡らせてきた。

空と星と話すのが翼をもつ者の務め。ずっーと受け継いで祈ってきたんだ。

誠太 ……ヨシバも翼を受け継いだの？

SE 波の音

誠太、やがてハケ。太鼓の音がやがて消える。

シーン5

ヨシバ (しくしくと泣いている) カカ様……

クンプが洞窟内にやってくる。

クンプ ヨシバのカカ様は偉大な方だった！

ヨシバ うん。

クンプ これからのフゴツペは、ヨシバが守る番。

ヨシバ うん。

クンプ 元気を出せ！

ヨシバ (泣きはらして) おう！

クンプ よし！フゴツペをもっと豊かにしよう。魚がいっぱい漁れるように。

もっと大きな舟を作ろう。シャチだつて乗せられるくらいの。

ヨシバ そんな大きな舟作れるか？

クンプ 作るんだよ！それから木の実も草もいっぱい採れるように植えよう！

ヨシバ うん！

クンプ ヨシバ、俺はここが大好きだ！フゴツペの朝の海は穏やかで、森は静か、

昼間は風が気持ちよく、シリパ岬に落ちていく夕日は綺麗で、

夜には星が満開になる。こんないい場所は他にない。

ヨシバがカカ様から翼を受け継いでみんなを守っていく。

ヨシバ それをクンプが支える。

クンプ おう！

ヨシバ 祈るよ。もっと大きな空と話してみるよ。全部守ってくださいって！

クンプ いきなり背伸びしたらカカ様に怒られるんじゃないか。

ヨシバ カカ様がそう言ってたんだ、昔。カカ様が残してくれたフゴツペを

絶対に、まもる(また泣いちゃって嗚咽)

クンプ そんなんで守っていけるのか？

ヨシバ 大丈夫！こゝろゝんなおつきなシャチ捕ってくるよ！

星になったみんなに認めてもらえるくらいの！

クンプ そうだな！

シヨロ 着きました！

ヨシバ ??

クンプ ヨシバ、星になったみんなに認めてもらうならもう一つ、

大事なものが要だ。おーい！

洞窟の入り口前に来るシヨロ。

シヨロ 初めまして、シヨロです。(太鼓トコトン)

照明、ある場所にスポット。そこに入っていくヨシバ。

ヨシバ シヨロ♡

太鼓の音が入ってくる。照明戻って。

クンプ ショロは、隣村で見つけたんだ。料理も上手で気立てがいい。

カカ様のことを伝えたら、向こうの村長がショロをこっちにつて。

ショロ お世話になります。

ヨシバ ヨシバ！

ショロ ヨシバ！

ヨシバ 料理は何が得意？

ショロ 魚やシカの燻製。

ヨシバ ……食べる。

ショロ うん！

ヨシバ (照れる) ……今度、一緒にお皿作る？

ショロ うん！親から代々受け継いできた縄目の模様があつて、

魔除けにいいつて。

ヨシバ おほ……いい。

ショロ うん！

ヨシバ ……シヤチ好き？

ショロ シヤチはまだ見たことがないの。

ヨシバ ああそう！？こんな(大きいの意味)の見せる！

クンプ おい！俺がいるんだから！ちよつとは気を使え！

ヨシバ ……ショロ、まずはクンプにフゴッペのこと案内してもらつて。

クンプ ああ。ショロ、行こうか。こちらへんは海も森も綺麗だし

ヨシバ ああ、クンプ！

クンプ ？

ヨシバ シリバ岬へは僕が連れていく。(ショロに)夕陽が、綺麗なところがあるから。

ショロ えゝ夕陽？

ヨシバ そう、僕と行こう。手を繋いで。

ショロ ……うん！

ヨシバ 気をつけてね

クンプ じゃあ行つてくる

ヨシバ ああ、ちよとまつてショロショロ。

ヨシバ、ショロを連れ戻す。

ヨシバ おほ……これ(首に掛けていたシカの骨をショロに掛ける)

ショロ いいの？

ヨシバ カカ様からもらったもんだから。ショロのこと、守つてくれる。

クンプ ショロ
ショロ 行ってきます

クンプとショロは洞窟を出ていく。

ヨシバ ゴーっと受け継いでいったんだ。命を巡らせるために。

回想が終わる。誠太が入れ替わりでいる。

シーン6

誠太が出てくるとまだ刻画を眺めている。

ヨシバはまた足をさすっている。

誠太 ココで暮らしていたなんて信じられないなあ。

ヨシバ それは信じてよお〜！ゴ〜と祈ってきたんだよ！

あ、僕が焼いたお皿見てよ！まだあるから〜！

誠太 ヨシバ!?

ヨシバ 取ってくる〜！

ヨシバ、洞窟を出ていく。誠太、しばらく壁を眺めている。

刻画を見ていると、「手を繋ぐ二人」を発見する。

誠太 なんの絵だろう??

外から声が聞こえてくる。

倉科 おいマジで言ってるのかよ！江ノ原！

江ノ原 うん！こっちに人が消えていくの見たんだもん！

夏海 それ絶対おぼけでしょや〜！

倉科 薄気味わりい〜

夏海 え〜ちょ早くみてきて！

江ノ原 僕一人で!?

倉科 そりゃそうだよ！お前は霊能力者なんだろ！

江ノ原 霊能力者じゃなくてスピリチュアリスト！

倉科 スピリチュアリストなら幽霊見えんだろ!?

江ノ原 幽霊じゃなくて精霊ね！
倉科 なんでもいいんだよ！先に入って幽霊いるか見てこいよ！
夏海 江ノ原、お願い！
江ノ原 え〜！怖いよ〜！
倉科 なんでスピリチュアリストが幽霊にビビってんだよ！
江ノ原 え〜
倉科 ほら！
江ノ原 え〜
倉科 ほら！！

ソロ〜と出てくる江ノ原。
舞台上に入ってくると無言で誠太を見つける。

江ノ原 ！！！！
誠太 ……
江ノ原 ……
誠太 ……
江ノ原 修行の成果があるなあ。こんなにはっきり見えるなんて。
誠太 え？
江ノ原 え？
江ノ原 あれ？…誠太？！
誠太 ……広樹？
江ノ原 ……？？ 誠太じゃん！
倉科 おい江ノ原〜！
江ノ原 賢太郎、夏海！こっちきてー！
誠太 誠太がいる！小塚誠太って覚えてない？高校の時、
2年まで一緒だった！（誠太に）え、誠太、何してるの？
誠太 いや

倉科、夏海がくる。

倉科 江ノ原、なにがいたって？
江ノ原 小塚誠太！僕の幼馴染の！ほら高2まで一緒にダンスやってたしよ！
倉科 小塚誠太？
夏海 ああああ！誠太くんじゃん！
江ノ原 えええええ、元気だった！？

誠太 まあ

江ノ原 こんなところで会えるなんてスピリチュアル

倉科 ん？

夏海 賢太郎、わかんない？誠太くん！

倉科 え〜〜〜〜

夏海 ダンス部で一緒だったしよや！2年の秋季大会でセンターの……

久しぶり〜えなにしてるの？海？

誠太 あうんそう

夏海 えええええええ、偶然じゃ〜ん。

江ノ原 夏海、こういうのは偶然じゃないんだよ。スピリチュアルな結びつきが

夏海 元気だった？

江ノ原 夏海と僕はまだスピリチュアルな結びつきが足りてないかな〜！？

ちえつちえつちえ〜

倉科 うわあああ！小塚誠太くんだ！秋季大会センターいなくなった事件の！

大会当日来ないで、中退しちゃった！

夏海 賢太郎。

倉科 ん？あいやごめんごめん！

誠太 あのときは……

倉科 いい、いい！謝ってほしいとかじゃないから。もう何年も前の話だし！

夏海 なんか会っていきなりごめんね。

誠太 あ、うん

倉科 いやでもなまら懐かしいなあ！小塚誠太……くん？

あの大大会、たぶん地区は勝ててたと思うんだよなあ〜

……。

誠太 誠太くん、大丈夫？

夏海 あうん

倉科 (夏海の話は聞いておらず) 誠太は今、何してるの？

誠太 ……？

倉科 いや仕事、なにしてるの？

太鼓の音が鳴る。ボン！

誠太 ……サラリーマン。

倉科 へえ〜普通に会社員かあ〜。何系？

誠太 何系？

倉科 金融！？IT！？

誠太 ……
夏海 賢太郎、やめなって。困ってんじゃん。
倉科 え？別に普通の質問じゃ〜ん。俺さ、今ここで働いてて。(名刺を出す)

夏海、これから始まる倉科の自慢話にうんざりしている。

夏海 はじまった。

倉科 ここでデベロッパやっててね！

誠太 すごい一流企業

倉科 まあ名前と会社のデカさはすごいんだけど、

俺なんてまだまだ年収900万とかそんなんでさあ。

(スマホで画像を見せながら) ちょこれ見てもらっていい？ほら！

家建てたいとか、駅近のマンション住みたいとかあったら、連絡して。

駅近でもクリニックと子どもの保育とか塾が充実してる物件とかは

今流行りだから。今、うちのマンションに夏海も住んでてまあ2階だから

景色とかは全く見れないんだけどね。こういうの興味ない？

夏海は、うんざりして視線を壁に向けると刻面を見つける。

夏海 賢太ろ…

倉科 26歳ってそろそろ次のステージの準備とかする年齢じゃん。

夏海は、壁の刻面に気づき、近づいていく。

夏海 賢太郎見てよ、この壁。

倉科 ちょまって夏海、なんか30代に向けて、将来設計とかなんか考えてる？

誠太 えそんな

倉科 ああ、じゃあ質問変えるわ、あと5年先、どんな暮らしがしてみたい？

誠太 5年先？

倉科 ライフステージをさらに引き上げていく上で欠かせないのが、

どこに住むかなのよ。駅もそうだし、家の大きさもそうだし！

夏海 賢太郎。すごいって何？絵？

江ノ原 触らない方がいい！

江ノ原の雰囲気が一変する。

夏海 え？
江ノ原 それ触らない方がいいかも。
夏海 あたし？
江ノ原 なむなむ。
倉科 うわっ！何この絵？
夏海 いやだからすごくないって？
江ノ原 離れて！
倉科 なに急に？
江ノ原 うっすらだけどずっと感じてたんだ。スピリチュアルを！
夏海 いやそういうのいいから！

お皿を持ったヨシパが戻ってくる。

ヨシパ 誠太、お皿持ってきたよ！
江ノ原 ああ！！！！
ヨシパ えああああああ！
夏海 えあなに！？
江ノ原 ……感じる。
夏海 え〜マジ！
江ノ原 マジ！
倉科 夏海、戻るか。
江ノ原 動かない方がいい！いる！完全にいる。
誠太 ……。
誠太 広樹、ホントに見えてるの？
夏海 江ノ原、本当にもういいって
倉科 おい
江ノ原 (カバンからお祓いの道具を出す)

江ノ原、他全員をゆっくりと見渡す。

江ノ原 スピリチュアル修行の成果、ここで見せる。

鈴を鳴らす。太鼓のリズムイン

ヨシパ なになに？

江ノ原 誠太、僕ね、二十歳のときに開眼したんだ。

精霊たちと会話ができるようになって。今もうそういうので生活してる。

倉科 なんかやるなら早くしろよ！

江ノ原 まずは、精霊の姿をこの目で見られるようにするから！

夏海 え、行こうよ気持ち悪いから

江ノ原 (ブツブツと話し出す)

夏海・ヨシパ (口々に) えなにになになに？

夏海 いやマジでなんなん？

倉科 江ノ原！

江ノ原 目つぶって！(太鼓アウト、ビブラスラップを出して打つ) んなあい！……！！

ヨシパに変化はなし。

江ノ原 ここにいる。

ヨシパ こっちだよ。

江ノ原 ここに。

江ノ原が指し示した場所には誰もいない。

誠太 え？

夏海 何がいるの？

江ノ原 ……お婆さんの精霊。

倉科 なんだよお婆さんの精霊って

江ノ原 50代から60代

じゃあ今度は精霊の魂をこの「ちくわぶ」の中にを閉じ込めるから。

倉科 「ちくわぶ」？

江ノ原 これが一番、僕のスピリチュアルと共鳴したアイテムだったから。

倉科 ちよ、寒くなってきたべや、

江ノ原 いくよ！チャーリーホーリー……ちくわぶあにつしゅ！！

捕まえた！

夏海 ええなにも！

倉科 もういいから、夏海行くぞ。

夏海 あ、誠太くんもうちらと合流する？

誠太 え？

江ノ原 ああそれいいね！バーベキューやってるから

倉科 やべ！そうじゃん、バーベキューセット出しっぱだぞ！

夏海 まずくない！？肉腐ってるって絶対！

倉科、夏海は行ってしまふ。

夏海 (戻ってきて) 誠太くん、待ってるから♡

倉科 ちょ江ノ原、急げよ!

江ノ原 うーん!

夏海 待ってコンロ燃え上がってない?!

倉科 おいゝふざけんなよ!

江ノ原、誠太、ヨシパが残る。

江ノ原 精霊が見えるとか全部嘘なんだあ。

ヨシパ・誠太 え〜!

江ノ原 僕、夏海のことずーっと好きでさあ……気を引きたくて、幽霊見えるって嘘ついたら夏海そのときはすげえはしゃいでくれてさあ。

そこから引っ込み付かなくなった。本当は、バイトで新聞配達してる。

チリンチリンって

誠太 へえ〜

江ノ原 幽霊なんていないよ。

ヨシパ いるよ

江ノ原 それよりも誠太、元気でよかったよ。

高校辞めて連絡も取れなくなるし、心配したんだよ。

誠太 そうだよな。

江ノ原 秋季大会のすぐあと、修学旅行行って帰って

気付いたら中退してて。

誠太 ……

江ノ原 修学旅行覚えてる? 奈良の東大寺でみんなで踊ったじゃん、こんな広いところないから踊ろーって! したっけ竹センが怒鳴り散らしてさあ!

こんな神聖ところで、騒いで踊り出すバカがあるかー! とか言ってる。

だから結局あれが誠太と踊った最後かあ。

誠太 ……広樹。

江ノ原 ん? 懐かしいね!

誠太 修学旅行行ってない。

江ノ原 え?

誠太 ダンスの大会のあと、そのまま中退して。修学旅行、行ってない。

江ノ原 え?! そうだっけ? 行ってなかった?

誠太 行っていない。

江ノ原 誠太、ダンスうまかったし、なんか東大寺でも踊ってたイメージあるけどなあ。

誠太 ……。

江ノ原 お母さん元気？

誠太 うん。

江ノ原 詳しく知らないからアレだけどんなにかあったら連絡して。

できることはするから。友達として。

誠太 ……。

江ノ原 ね？

誠太 ……ありがとう。

江ノ原 誠太もよかったらバーベキューきて。じゃあ。

誠太 ……。

江ノ原 あ。さつき、スピリチュアルとかねえって言ったけどさあ。

誠太 ん？

江ノ原 夏海とは運命っていうか、お互いの精霊が呼び合ってる感じがするんだ。

誠太 ……。

江ノ原 3人していると、夏海と2人きりになるの難しいから。

誠太もきてよ。会社、熱出したとか言って休めないの？

誠太 ごめん。

江ノ原 全然。俺は今日告白する！高級なお肉とかいっぱい買い込んだから。

江ノ原、去っていく。誠太とヨシパが残っている。

シーン7

ヨシパ 誠太？？

誠太 (座り込んで吐いている) ううええ

ヨシパ 大丈夫？

誠太 (いつの間にか大泣きしている)

ヨシパ えええええ、(肩を触ろうとして) スーン！あああ！スーン！

誠太 これ以上、傷つきたくない！

ヨシパ え？…ほ、ほら仲間が呼んでたよ。

誠太 アレが仲間に見える？

ヨシパ ……一緒に生きてるんだから、仲間だよ。

誠太 ……ヨシパは何もわかってない。

ヨシパ ……誠太だってヨシパのこと

誠太 ……ヨシパは死んでる！

ヨシパ ……。

誠太 僕は何も望んでない！……なんだこの人生！誰がこんな人生にした！

誰が……こんな人生……。誰も、悪くない。

ヨシパ 誠太……

誠太 逃げ出し（たい、と言いかけて）……ちやダメなんだ、お母さんには、

僕しかない。

ヨシパ 誠太。お皿、見て。

誠太 （顔を上げる）

ヨシパ このお皿だって僕らのためにいてくれるんだ。

洞窟に夕陽の灯りが入ってくる。

ヨシパ シリパ岬に落ちていく夕陽も、僕らのためにいる。

シヨロがやってくる。

ヨシパ 落ちていく夕陽に祈っていると、シヨロが言ったんだ。

シヨロ ヨシパ、このお皿にも命が宿ってるの。

誠太・ヨシパ 命？

シヨロ そう、このお皿は私たちのために、命を燃やしてるの。

だからここに美味しいものが入るの。

私の村の教え。全部に命があるの。あの夕陽も。空から命をもらって、役目を終えたら、星になる。星は私たちを見守り、終えるとまた、新しい命になって還ってくる。星はめぐる。命がめぐる。

ヨシパ シヨロの村の教えをフゴツベのみんなに教えよう。

シヨロ うん。

ヨシパ フゴツベから、次は誰かが別の村に行くときに、教えは伝わる。

もつともつと豊かになっていく。

シヨロ うん！

ヨシパ シヨロ（惚れ直す）

シヨロ このお皿に私の気持ち入れた！

ヨシパ 今、胸がドキドキするよ。土器だけに。

シヨロ ……どういうこと？

ヨシパ ああ、わかんない？

シヨロ うん、わかんない。

ヨシバ ああそう？胸がく土器土器。
シヨロ ん？

ヨシバ ああいいいい、シヨロの気持ちは嬉しいから。

シヨロ ほんと？

ヨシバ うん。

シヨロ ヨシバのカカ様が笑顔でいられるように、フゴツペに尽くしたい。

ヨシバ ……。

二人、変に大人っぽい雰囲気になる。

クンプ ヨシバ

ヨシバ ヨシバく

クンプ おおしくシヨロ

ヨシバ なに？

クンプ 明日の舟ができた！見てほしいんだ。シヨロ、明日はヨシバがシャチを獲るぞ！

シヨロ シャチ？

クンプ ああ、大きいのを獲って、次の翼を受け継ぐ！早く来い！

クンプ、いなくなる。

ヨシバ おおしく！シヨロ、フゴツペで二人一緒に。

シヨロ 私も祈り続ける。

ヨシバ (手を差し出す)

シヨロ 舟、見えていい？

ヨシバ うん

シヨロ ありがとうく

シヨロも去って行く。

ヨシバ シャチを獲るまではお預けか

シヨロ戻ってきて

シヨロ ヨシバ！

ヨシバ え？

シヨロ これ

ヨシバに土偶を渡す。

ヨシバ なに？

シヨロ あげる。行こうヨシバ。夕陽が落ちる前に。

SE波の音、少しだけ風が強い

シヨロ、去って行く。誠太とヨシバが残る。

ヨシバ このお皿も、シリバ岬に落ちていく夕陽も、いつだって命を燃やしてる。だから、

感謝を捧げて、祈るんだ。豊かになりますようにって。

誠太 ……。

ヨシバ 夕陽、綺麗だよ。

誠太 いい。

ヨシバ ……祈ってくる。

ヨシバ、出ていってしまう。

誠太 うええ(嗚咽)。

シーン8

入れ替わりで、晴と碧が入ってくる。家の中。

誠太、舞台に残りうずくまっている。

碧 お母さん、ちよっと！

晴 せいちゃん！

碧 明日には帰ってくるって！

晴 どうして一言、言ってくれなかったの？！

碧 誠太、大人なんだよ。いいじゃないどこいっても？私もいるんだから。

晴 せいちゃん

碧 お母さん！ねえ、ちゃんと聞いて。明日一緒に施設見学しに行こう。

晴 見学だけで入ってとは言ってないんだよ。

碧 ダメなの！アタシが誠太のこと守ってあげなきゃいけないんだから。

晴 だから誠太はもう26だよ、お母さんのこともう15年も

晴 母親なの！！！！

碧 晴

……急に大きな声出さないでよ
“母”なのアタシが。お腹いためたの。

碧

私があの子を守るの。私……まだじゃがいもじゃないの！

碧 晴

私の時は「お母さん」してくれなかったじゃない！

碧

……

碧 晴

……私からすれば“私”があなたたちのこと世話してきたと思ってるんだけど。

碧 晴

あのギャンブル好きのクソみたいな父親がいたときの方が

碧 晴

まだマシだったって思うよ！

碧 晴

……

碧 晴

7年だよ！7年！！11歳から18歳までずっと！！！！

碧 晴

高校卒業するまでお母さんとまだちっちゃい誠太みて。私……

碧 晴

運動会も！学習発表会も！修学旅行とかさあ……

碧 晴

あの日、お母さんがいきなり朝っぱらに家出て

碧 晴

迷子になったせいで……忘れてないからね！

碧 晴

……私は、私の人生のための時間を……取り戻さなきゃいけなかったの！

碧 晴

……わかってるよ。だから内地の美容師の専門学校やったしよや。

碧 晴

碧の好きなように生きてよかったんだよ。お母さん、嬉しかったよ。

碧 晴

東京で美容師になったんだもん！お母さん、髪切ってくればもうそれ以上、

碧 晴

何も言わないから。

碧 晴

……やってない。

碧 晴

……え？

碧 晴

美容師なんてとづくにやってない。切りたくて、でも縁は切れなくて。

碧 晴

……

碧 晴

ずっと逃げてきたから。お母さんと誠太を置いて。

碧 晴

……碧……

碧 晴

お母さん。

碧 晴

……おいで。

碧、晴のもとへ寄っていく。

碧 晴

碧は碧で苦しかったよね。東京から帰らないのも……辛かったね。

碧 晴

……でも私……結婚しちゃった

碧 晴

なしてそんな言い方するのさ。

碧 晴

だって結婚して帰ってこない理由作って。

碧 晴

ううん。碧の人生なんだから、いいんだよ。

碧 晴

お母さんと誠太の人生、ぐちゃぐちゃにしちゃった。

晴 してないよ。碧にお母さん、とっても救われたんだよ。
碧に一等感謝してるよ。
碧 お母さんが一番辛いのに……。
晴 がんばったががんばった。
碧 でもやっぱり、お母さんがいる結婚式したくて！
晴 ……帰ってきてくれたんでしょ。
碧 今更こんなこと言っても、私が全部悪いから、ダメなんだけど。
晴 なんも気にするんでない。言っ
碧 お母さんに、じゃがいもになってほしいわけじゃない
晴 でも誠太だって大事な弟だし。
碧 (首を横に振り) やだ……。
碧 お母さん
晴 誠太のお母さんでいたい。いさせて。せいちゃん！(と何度も叫ぶ)
碧 お母さん！

太鼓が、踏切を通過する電車のように鳴る。暗転。
やがて演奏が決まる。

シーン9

明転。誠太がいる。夏海がやってくる。晴は残ったまま。

夏海 誠太くん？
誠太 あ(居直っていく)
夏海 いい？
誠太 あうん。
夏海 なんか江ノ原のスピリチュアルはどうかわかんないけど、
ここで誠太くんと会ったっていうのはなんかさういう力？
夏海 本当にあるのかな？って思っちゃうよね。
誠太 ……うん。
夏海 誠太くん、あたしの下の名前覚えてる？
誠太 夏海……知華。
夏海 覚えてるんだ。私さあ、ダンス部で全然目立たなかったし、下手だったから。
2年生の夏に、僕がちよっと捻っちゃったとき
保冷剤とかすぐ持ってきてくれたのを覚えてるよ。
夏海 ……それ覚えてる。その間、私にダンス教えてくれたじゃん。

誠太 ああうん

夏海 あんときだけなんだよね正直、ダンス部楽しいって思ってたの。

誠太 ……そう、なんだ。

夏海 気にかけてくれてたしよ、あたしのこと。

誠太 部活、誘ってくれたから。

夏海 覚えてるの？

誠太 嬉しかったんだ。

夏海 誠太くん、すごかったよね。

誠太 え？

夏海 だって怪我治ってすぐレギュラー戻ったし。

来れるときしか来ないのにずっと上手いし、

来たと思っただらみんなより簡単に踊れちゃうし。

誠太 ……。

夏海 羨ましかった、誠太くんのこと。

誠太 いや。

夏海 私、向いてないな〜って思い始めて、そしたらがんばらなくなっちゃった。

案外、がんばらなくなったらそれはそれで平気でき。

誠太 ……。

夏海 これからさあ、賢太郎のキャンピングカーで5日間、道南行くの

明日、大沼でみんなと合流。

あたしやりたいこととか本当なくて。

この5日でなんか思いついたらいいな〜って思ってたんだけどねえ。

誠太 ……。

夏海 誠太くんと会ったのは結構大きいかも。

誠太 ……。

夏海 あたしさあ、賢太郎と付き合い合ってるんだけどね。

誠太 ……！ え、そうなんだ……広樹〜

夏海 賢太郎、めちゃめちゃ楽しそうなんだよね。

誠太 倉科くんとはいつ付き合い始めたの？

夏海 高校行ってるときからずっと

誠太 広樹〜

賢太郎、昔はさあ、もつとテキストに遊んでるタイプだったのに。

だから一緒にいて楽しかったし。でも賢太郎は大学行って、

私はバイト転々として。その辺りからさあ、私、誰に何相談したらいいのか

わかんなくなっちゃった。そういうことない？

めっちゃめっちゃ仕事頑張ってるのは嬉しいんだけどね。今日なんか助手席で

仕事の話聞いてたら、なんか惨めになってきちゃってさあ。

江ノ原と一緒に荷物みてるわー

って後部座席に逃げたら、ちよつとやきもちで賢太郎もちよつと怒っちゃって。

でも賢太郎は賢太郎でそういうの見せないようにって絶対気使ってるんだよね。

倉科くんも誰かに気を遣ってるのかな？

使ってると思う。みんな……何かしら。……ああいいやなんでもない！

なんかもうそういうの含めてめんどくさいんだー。賢太郎のこと見てるのも、

結局何も見つけられず、ただ遊んで逃げちゃってる私が私を意識するのも。

……遊んでられるのって幸せだと思うよ。

遊べるくらい余裕もあって、やりたいことも見つからないのも

結構地獄だよ。

……。

誠太くん

？

一緒に行こうよ！

え？

誠太くんいたら楽しくなりそうじゃん！

いやえ

下着は、ユニクロで買えばいいじゃん！

……僕は……行けないよ。

？

ここから出たくない。

江ノ原がやってくる。

江ノ原 夏海、豚トロ、トロトロだけど。七輪火柱ぼーつつって。

夏海 誠太くん……？

誠太 なに？

夏海 ……行けない？

誠太 ……ごめん。

夏海 ……江ノ原、賢太郎は？

江ノ原 酒、ゴミ袋、ブーンつつって。

夏海、いってしまふ。江ノ原、本性を表す。

江ノ原 今、賢太郎がいなくて二人きりなんでやんす。ちゃーんすたいむ♪

誠太 ……。

江ノ原 バーベキュー店開店中♪脈はありありなんですよねえ〜。

いよいよ来ましたよね〜。

今日いきなりトイレ休憩でコンビニ寄ったあと急に後部座席に座ってきてさあ。
バーベキューの火が消える前に、夏海に告白するわ。

誠太 広樹

江ノ原 誠太、止めるなよ。いん〜や止まりませんよ。俺のハツはもう、

燃え上がっちゃってんだから！バーベキューだけに。ハツ。

ホルモン全開でいくわ。(ブンブーンなど何か言いながらハケようとする)

誠太 ……広樹。

江ノ原 な〜んでごぜえやすか!?

誠太 がんばって……。結ばれるといいね……。

江ノ原 ○○

江ノ原、ガッツポーズをして去っていく。誠太は項垂れている。

誠太 ……。

ヨシパがやってくる。交錯するように、

ヨシパ 誠太。

誠太 もういい。

ヨシパ ……。

誠太 ……僕が行ける世界なんてどこにもない。

ヨシパ そんな風に思っちゃダメだよ。

誠太 だったらどうしろって言うんだよ!!!

ヨシパ ……。

誠太 僕の、お母さんだから。僕が一人で、一生お母さんを看るのがいいんだ。

どうすることもできない。

ヨシパ ……誠太。

誠太 ……。

ヨシパ 誠太のカカ様の話を聞いたときから、ずっと頭から

離れないことがあるんだ。

SE さざなみの音 やがて大きな波の音になっていく。

ザッパーン 暗転。 誠太ハケ。

暗転の中、クンプの声が聞こえてくる。

クンプ ヨシバ！ヨシバ！ヨシバ！！

波の音が小さくなっていく。

明転すると、ヨシバは倒れていて、足を大怪我し、
麻でできた布のようなものを掛けられている。

クンプ ヨシバ！

ヨシバ (ゆっくりと目が覚める)??

クンプ ヨシバ！？

ヨシバ クンプ？

クンプ ショロ！ヨシバが目を覚ました！ショロ！！！！……ヨシパっ！（泣いて喜ぶ）

ショロ ヨシバ！？

ヨシバ ショロ

ショロ、生きていたヨシバに抱きつく。

ヨシバ (足に違和感を感じ、痛みが走る)

クンプ ショロ

ショロ はい(大きめの草を足に巻くなどできる治療)

ヨシバ (また痛み、自分の足を見て)クンプ？

クンプ ……後ろから急に来た高波に舟が持っていかれて、

ヨシバの足を挟むように岩場に衝突したんだ。

ヨシバ ……狙っていた大物は！？

クンプ 逃がしてしまった。

ヨシバ ……(痛みが走る)。

ショロ ヨシバ、大丈夫だから。絶対良くなるから。

ヨシバ ……(痛みが走る)

クンプ ショロ、草が足りない。

ショロ はい！

シヨロ、いなくなる。

クンプ 足は必ずよくなる。森の綺麗な水で洗おう。

ヨシバ (痛みが走る)

クンプ 生きていてよかった。

ヨシバ 舟はどうなった？

クンプ ……。

ヨシバ 他のみんなは？

クンプ 全員、無事だ。

ヨシバ よかった。

クンプ ……明日は。

ヨシバ ……明日？

クンプ ……。

ヨシバ こんな足じゃ翼は授けられないか。シャチも獲れなかったしな。

クンプ ヨシバ。

ヨシバ 明日の儀式は中止だ。

クンプ ……。

ヨシバ 明日の儀式は中止、足が治ったらまたやろう。

クンプ シャチを獲って、空と話したかったなあ！

クンプ ……翼は俺が授かる……ことになった。

ヨシバ ？

クンプ ……。

ヨシバ クンプ？

クンプの胸には新しい族長の印である首飾りがついている。

クンプ ヨシバのことは絶対に死なせない。

クンプ だけど！これからヨシバは狩りには出られなくなる。

ヨシバ あー、海はダメかも！踏ん張りがきかないから！

クンプ でも森ならみんなと一緒に。

クンプ 仲間を危険にさらすわけにはいかない。

ヨシバ ……。

クンプ ヨシバはもう狩りには連れていけない。

ヨシバ ……。

クンプ 翼は俺が

ヨシバ クンプはカカ様からは生まれてない

クンプ 男たちで決めたことだ！空はヨシバを選ばなかった。
ヨシバ ……。
クンプ フゴッペはもつとよくなっていく。
ヨシバ ……。
クンプ 祈り続ける。豊かであり続けるように。
ヨシバ ……。
クンプ ……。
ヨシバ ……シヨロは？
クンプ ……。
ヨシバ シヨロはどうなる？
クンプ 隣村からは、翼を授かったものに、という話になっている。
ヨシバ ……。

シヨロが戻ってくる。

シヨロ 持ってきた。ヨシバ少し痛むかもしれないけど
ヨシバ 置いといて、自分でできる。
シヨロ だって。
ヨシバ 大丈夫。今日は早く寝て。明日の準備があるだろう。
シヨロ ……？
クンプ 夜通し、ヨシバのこと看るから。
ヨシバ (笑顔を作って) ……ありがと！！
クンプ ……シヨロ、他のみんなにヨシバを見るように伝えるんだ。
シヨロ はい。
ヨシバ 大したことないよ！
クンプ ……じゃあ、そう言っておいてくれ。

シヨロ、首にかけていたシカの骨をヨシパに返す。

シヨロ カカ様の力でヨシパの痛みが少しでも早く和らぎますように。
ヨシパ ……。

シヨロ、捌けていく。

クンプ ヨシパ。
ヨシパ 平気だよ

太鼓の皮を擦る音（録音）が聞こえる。

ヨシバ あんなに空が荒れてたのに。クジラが笑ってる。
クンプ 明日は大きな獲物を捕まえてくる。ヨシバが安心するくらいなの。
ヨシバ ……じゃあ僕はそれを料理するよ！火は起こせる。料理くらい……
クンプ ヨシバ……。すぐに他の者が来る。

クンプ、捌ける。

ヨシバ 火が起こせる。料理もできる。
（地面から土を手繰り寄せて）土があればなんだって作れる。

ヨシバは、足を引きずりながら、骨で床や壁を削り出して
画を刻んでいく。

ヨシバ （削り出したところを指差して）たっくさんの木の実が生（な）ってる木！
大きくなって、沈まない舟！
シカを獲る罨は、シカが痛くないように！
（笑いながら、もう一度、指差して）伝えられる、
ずっと、ズー……と先まで伝えられる！

間。OHP「翼をもつ人」

ヨシバ 飛べる……きつと飛べる！楽しい明日を、飛べる……。
だって、フゴツベには立っつっつ派な翼をもつ。
クンプがいたんだもん！
世界が、豊かになりますように……。

泣き崩れそうになりながら、刻画を描くヨシバ。
SE波の音が鳴っていく。暗転。

シーン11

明転。時間経過して、いつかの昼。ヨシバは刻画を描いている。
やってくるシヨロ。

シヨロ ヨシバ…
ヨシバ ?……シヨロ
シヨロ また何か描いてるの?
ヨシバ ……フゴツペを、残したいんだ……。
シヨロ ……足の具合はどう?
ヨシバ ……平気。
シヨロ そう……ご飯たべよ?今日はいっぱい魚が採れたみたいよ。
ヨシバ ……おほ、いい。
シヨロ ヨシバ、きちんと食べないと。
ヨシバ クンプたちが獲ってきたものだから。
シヨロ ヨシバが考えた舟で漁してるの。
ヨシバ ヨシバのおかげでたくさん持って帰ってこられるの。
ヨシバ 僕は漁に出てない。
シヨロ ……ヨシバがいて良かった。
ヨシバ そんなわけじゃないじゃないか!!
シヨロ ……そんなわけもあるも。綺麗な絵。
ヨシバ ……。
シヨロ 何描いてるの?

ＯＨＰ「手を繋ぐ二人」

ヨシバ ああ、これはシヨロと……
シヨロ ??
ヨシバ ……これはシヨロと……クンプ!
シヨロ どうせならもつと真ん中に大きく描いてくれたらいいのに。
ヨシバ シヨロも描く…(シヨロの首飾りに気づく)
その首にかけてるの
シヨロ クンプから渡された。フゴツペのみんなであなただを支えていく。
私、もつともつとフゴツペのために、
クンプのためになれるよう、なんでもやる。
ヨシバ よし!頑張っているシヨロにとっておきの秘密を見せてあげる!
シヨロ ……???

ヨシバは小さな縄文クッキーを取り出す。

シヨロ なあにこれ？

ヨシバ 木の実を煮詰めて、柔らかくして、乾かした後

石ですり潰す、そこに、水を入れて練って、もう一度焼くと

シヨロは一口食べる。

シヨロ !……おいしい!

ヨシバ おほ。

シヨロ うん!おいしい!

ヨシバ これがあれば冬に魚やシカが獲れなくても、みんなで乗り切っていける!
命が、繋がる。

シヨロ ヨシバ

ヨシバ ……シヨロ

クンプの声がする。

クンプ おうい!シヨロ!魚が獲れたから、運ぶの手伝って!

シヨロ はい!

シヨロ、捌けていく。

ヨシバ、悲しげに去っていく背中を見つめている。

クンプ ヨシバ!今日はたつきさん食えるぞ!

ヨシバ お、おう!

クンプ ほら!食べる前に!祈ろう!こっちに出てこられるか?

今手が離せなくて!今日も世界が豊かでありますように!

すごいよ!今日の空!こんなに晴れてるんだから!

今日はお祭り騒ぎだああああ!

ヨシバ クンプ!僕に分まで!祈ってよ。

全部まかせた!!空はクンプを選んだんだから!

クンプ え〜!?なんだって!?!?

ヨシバ なんでもなーい!!僕にはこれがあるからー!これ食べて生きていく!!

クンプがいてくれてよかったよ。シヨロと一緒に生きてよかったよ。

フゴッペには翼の生えた素晴らしい人がいて、いつまでも平和に暮らしました!

僕もここらになっちゃうけど、ずっとずっと祈り続けるよ!!

舞台上に誠太が現れる。太鼓の音が入ってくる。

世界が豊かでありますように！

世界が豊かでありますように！

世界が豊かでありますように！

太鼓の音が決まる。場転明かり

シーン12

ヨシバ どうすることもできない、なんて思わないで。

誠太 ……ヨシバは、やっぱり何もわかってない。

ヨシバ そう！ヨシバは何にもわかってない！だから祈るの！

誠太 祈ったって何も解決しないじゃないか！

ヨシバ ……（そんなことないと言いたかった）

晴が舞台上に現れる。晴はかなりまともな顔つき。

晴 この方にそんなこと言っちゃいけません。

誠太 お母さん？

晴 ごめんなさいね、息子が。ほんととはとっても優しい子なんですけど。

あなたがここにいてくれてよかった。一人きりだったら、この子何してたか。

本当に感謝してるわ。

ど、どうしたの？

晴 どうしたのってそんな言い方ないでしょう。

誠太は、晴が死んだと悟る。

誠太 ちょっと待ってよ……

晴 この方があなたをずっと守ってくれてたのよ。

誠太 どうしてここにいるの?!?!?

誠太、肩を捕まえにいくと、晴と交錯してしまう。

晴

スーン

誠太 ……怖いよ。
ヨシバ 誠太は豊かな世界に、生きてるんだから。
誠太 ……ヨシバ。
ヨシバ 翼を授かる時、必ずすることがある。
誠太 ……。
ヨシバ みんなと手を取る。
晴 せいちゃん、もう行きなさい。
誠太 お母さん。
晴 誠太なら、きつと飛べるよ。

誠太にOHP「翼をもつ人」が重なると、
誠太、ゆっくりと出ていく。テーマ曲かかりきって

ヨシバ ……よし。
晴 ……。
ヨシバ ……またここで祈り続けます。
晴 もういいの。……頑張ったね。
ヨシバ え？
晴 ずーっつと、頑張ったね。
ヨシバ え？
晴 もうあなたは祈らなくてもいいの。誰かが祈ってくれるから。
ヨシバ ……でもここは。
晴 忘れられないから。誰かが伝えていくから。
ヨシバ ……。
晴 この先はもつと豊かな世界になっていくから。
あなたがいたから。
ヨシバ カカ様？
晴 ……みんなが空で、待ってる。さあ…
ヨシバ 世界は、豊かになっていますか？
晴 ええ。誠太を信じてあげて。
ヨシバ はい。
晴 ちゃんとお名前を聞いてなかったわね？
ヨシバ ヨシバ。
晴 ヨシバ……。さあ。

ヨシバ、晴、捌けていく。

入れ替わりで夏海が入ってくる。S E 波の音。

夏海 誠太くん！……

洞窟内には誰もいない。立ち尽くしている夏海。江ノ原やってくる。

江ノ原 夏海、誠太！

夏海 誠太くんいない。

江ノ原 え？

夏海 どうしよう、誠太くんやっぱりなんか変だったもん！

江ノ原 いやそれずっと言ってるけど誠太って昔っからああいう感じだったけど。

夏海 違う。なんか違った絶対！

江ノ原 そんなことより夏海……大事な話がある。

俺と……夏海のスピリチュアルはすでに共鳴し合ってる、

俺と一緒にならない？

夏海 ……探さなきゃ。

夏海、走り出す。倉科がやってくる。

倉科 おおおお、肉も酒も買い足してきたから。

夏海 誠太くん探さなきゃ。

倉科 え？

夏海 誠太くん、いなくなった。

倉科 どういうこと？

夏海 わかんない！けど探さないと！

倉科 夏海いって、そのうち戻ってくるだろ。

夏海 戻ってこないかもしれないじゃん。

倉科 落ち着けて。昔からああいう感じだろ……

夏海 なんか違った！……ずっと違和感あった。

倉科 だとしても他人のことなんだから、あんまり深入りすんなって。

夏海 ……他人だからだよ。……一番近い人に、言えないことってあるから。

倉科 ……何が言いてえんだよ。

夏海 誠太君は気づいてくれたのに。

倉科 えなんの話してんの？

夏海 車貸して、私運転する。

夏海、走っていく。

倉科 ちょ夏海！

江ノ原 夏海！…照れてたのかな…。一番近い人に言えないって…！そういうこと…？！

倉科、江ノ原も追いかけていく。

SE 波の音場転明かりへ。

シーン13 3年後。

誠太、碧に電話をしている。

誠太 うん、今ちょうどついたよ。うん、整備されてる。

碧 あれから3年か。今日は？お母さん元気？

誠太 施設でヘルパーさんと遊んでる。カラオケするって。

碧 そう。入れてよかったね。倉科君が紹介してくれた介護付きのマンション、

いまだにモニター価格でいいのかな。

誠太 甘えさせてもらってる。

碧 ありがたいね。

誠太 うん。あ、仕事も今週から異動して、施設内のキッチンで、和食担当のスタッフ。

碧 へえ！

誠太 変わらず同じ建物にずっといるから。お昼は一緒に食べられる。

碧 お母さんも喜んでるしょ。

誠太 うん。

碧 誠太。ごめんね…私が逃げて。

誠太 もういいよその話。

碧 だって、お母さん、あんどきに本当に危なかったんだよー！

誠太 急に「せいたー！」って叫んで、踏切突っ込んで。

碧 気持ちだけがここに、会いにきてくれた。

碧 もしもし、誠太？

誠太 ううん、大丈夫。たまに東京からお母さんの顔見に来てね。

碧 喜ぶから。

誠太 ……うん。誠太は一等優しいね。

誠太 東京もう暑い？

この辺りで、職員さん、倉科、江ノ原もきている。

碧 ああ〜もうすごいよ。何年経っても慣れない。蒸し風呂、モウワ！って感じ。

これに、つわりも来ると思うと本当こわい。

そっか。

誠太 うん。電話ありがと。

碧 ううん。あ、職員の人待たせてるから。切るね。

うんはい、はいーい。

誠太、電話を切る。

誠太 すいません。ごめんね。

倉科 うい。お姉さん？

学芸員 はい、よろしいでしょうか？

倉科 あはい、お願いします。

江ノ原 お願いします！

学芸員 まあご覧の通り、こういうった感じで、国の指定史跡として保存しております。岩面刻画は、世界でも珍しいものでして、あの〜壁画ではなく、岩の壁をこう、動物の骨や硬い石で削り出しているの、「刻画」と呼ばれるものなんですが…

倉科、刻画の写真を撮ろうとする

学芸員 こちら保存の観点から撮影は…（倉科を止める）

倉科 ああ、すいません

学芸員 日本国内では、ここフゴツペ洞窟と、お隣の小樽市にある手宮洞窟にしかありません。

江ノ原 ここはどういった場所だったんでしょうか？

学芸員 まあいろんな考え方があって思うんですが…

学芸員、職員に合図を出すと、OHP「翼をもつ人」

江ノ原 いい機械ですね…！

学芸員 ああじゃあ（職員に説明を促す）

職員 こちらが、フゴツペ洞窟の刻画で最も特徴的なもので

江ノ原 翼をもつ人！

職員 ……その通りです。入り口にも書いてあるんですが、肩から翼が生えた人なんですね。

江ノ原 ミステリアース

OHPのスイッチを切る職員。

江ノ原 機械のスイッチ、押してくれてありがとう。

職員 これはいわゆるシャーマン

江ノ原 シャーマンキング

職員 呪術的なことをする人を描いたのではないかと推測されています。

江ノ原 呪術廻戦？

学芸員 中でもこの時代における「土器」って道具としてだけじゃなく、文化的にも重要だったと思うんですよ。

職員 例えば政（まつりごと）に使う「楽器」にしたとか。

江ノ原 （職員を見て笑顔）歴史ロマンティズム。

職員 （愛想笑い）

学芸員 人との繋がりがしっかりとあったから「埋葬」もしてたんですよ。

職員 （江ノ原からの迫りを感じて）別な施設になるんですけど、石を並べた環状列石っていうのがあって。埋葬施設だったとされているんですけど。よろしければ共通券で入れますので。

江ノ原 （共通チケットを見て）これですね。

職員 はい。

江ノ原 受付に積んであったものを。

職員 では（江ノ原に渡すはずだったパンフレットを引っ込める）

江ノ原 もらいますよ。外山さんからもらいたかったので。（自分が持っていたものをあげる）これは返します。

職員 同じもの…

倉科 続けてください。

職員 はい、大昔に死んだ人を埋葬するという考えがあったことが不思議だなくって私は思います。

学芸員 外山さんいいねえ。あ、すいません。最近、入ったもので。

倉科 へ〜地元出身？

職員 はい、忍路に家が…

倉科 忍路…

職員 はい。私、まずこの時代に、ここで人間同士が争った形跡がないことにすごい感動しちゃって。

倉科 へえ

江ノ原 解説ありがとう。

学芸員 あ、あの〜ここから出てきた遺体があるんですけどね。

その遺体、屈葬といってこう、体育座りみたいに、

学芸員、屈葬を自分で再現する。そのまま話しを続ける。

学芸員 足を抱きかかえるようにして埋葬されていてまして、縄文の世界では

魂が暴れ出さないように、安らかになりますように〜ってことらしいんですけど。

その遺体、足を骨折していたんですよ。でも、骨を調べると、

40歳くらいまで生きてまして。人と人がちゃんと繋がってたから

長生きできたんですね。 (足の骨折に関するうんちくを言う)

倉科 もう、もう、大丈夫です。屈葬はわかりましたから。 (学芸員を起こす)

学芸員 ああああ！……くっそー！

全員 はははは…

職員 面白いのがもう一つ……いいですか？

学芸員 いいどうぞ。

職員 その遺体……虫歯だらけだったんですよ。

倉科 へえ。

職員 この時代にもクッキーみたいなものがあって、その食べ過ぎで。

江ノ原 そんなことまでわかるんですね。

職員 虫歯治せるっただけも、ほんと今は良い時代ですよね。

江ノ原 ほんとですね。

学芸員 昔だって相当豊かだったんじゃないかって僕は思っちゃいますね。

翼をもつ人は、どんな人だったんでしょうかね？

誠太 ……。

学芸員・職員刻画の前を陣取って話し始める

倉科 それ：見せてもらってもいいですか！

学芸員 ああああ…！壁の画よく見てみると楽しいので。どうぞ。

しっかり保存して、お伝えさせていただきます。

倉科 丁寧にありがとうございます。

江ノ原 いえ、助かりました。(職員に) ありがとう。

職員 (愛想笑い) フゴッペ洞窟のオリジナル商品などもあちらにありますので。

江ノ原 案内してください。

職員 あ、すぐ出たところに。
江ノ原 案内してください。
学芸員 一旦。

職員と江ノ原ハケ。

学芸員 では、ごゆっくり。
倉科 ホントすみません…

学芸員もハケ。

倉科 江ノ原、完全にロックオンしてるよなあ。

誠太 うーん。

倉科 自由でいいよなあ。

誠太 倉科くんも自由じゃん。

倉科 よくわからないな。縄文時代に比べたら自由か。

誠太 ありがと。

倉科 ん？

誠太 ここにきた、あの日、僕のこと探してくれて。

道南旅行いくはずだったのに。

違うんだよ。

誠太 え？

倉科 夏海なんだよ、探さなきゃって言ったの。

誠太 そうだったんだ。あの日以来、会ってないから。

倉科 あれからだよ。夏海、急に張り切り出してさあ。看護師の勉強してみたいとか
言い出して、フラれたよ。なんかそういうやつじゃなかったんだけどなあ。

誠太 ……

倉科 で、俺が紹介して入れてたマンションも出ていっちゃって。

誠太 そのときに夏海がさ。部屋のモニター？誠太に譲りたいって言って出て
いったんだよ。

誠太 そうだったんだ。

倉科 あの部屋、元々夏海が入ってたんだよ。

誠太 ……

倉科 ……なんでも相談してって言うときあ、なんにも話さないよなあ。

誠太 え？

倉科 夏海のこと。なんでも相談乗るし、なんでも言えよってこっちから

言っても、話せる人じゃないと話さないよなあって。

誠太、あれから話してくれたじゃん。

誠太
うん。

倉科
なんでお母さんのこと俺に急に話したの？

誠太
飛びたくて。

倉科
ん？

誠太
飛びたくて。

ラストBGMイン。

誠太
飛ぶときに、手をとって飛ぶんだって。

倉科
ああ〜そう……。誠太なんかやつぱりちよつと変わってるな。

誠太
……すぐに答えてくれてありがとう。

倉科
ううん。

江ノ原
(戻ってきて) ちよつとこっちで写真撮ろう！

お姉さんと僕のツーショットもお願いしていい？

……いいよ。

誠太
いくか！

倉科、江ノ原が先に歩き出す。

倉科
誠太

誠太
ん？

倉科
このあと飯食って帰らね？

誠太は「なんでも相談して」なんて大まかなことを言われるよりも、

「飯食って帰らね？」の方が嬉しい。

誠太
「ジジヤババヤ」で、ピザ食べようよ。

倉科、頷いてハケ。残っている誠太。

壁の面をもう一度見る。誠太の人生は続く。やがてハケ。